

県連創立 50 周年記念海外登山 第 2 弾
『ヴェトナム最高峰ファンシーパン 3,143m 登頂と
世界遺産ハロン湾クルーズ』を楽しんで…

安彦秀夫（東葛山の会）

日程：2016年4月12日（火）～19日（火）＜7泊8日＞ 16名

参加者：東葛7、こまくさ3、ちば2、らんたん2、シリウス1、茂原1
（男性6名、女性10名）

急遽決まったヴェトナム・トレッキング！

参加者16名で、一足早い 3,000m 峰の夏山登山と棚田トレッキング、そして観光、更に、ビールを全身で堪能してきました。

<1> はじめに

今年の1月30～31日の県連恒例行事『房総ロングハイク』の七里川温泉で、昨年10月のバリ島サンライズ・トレッキング参加者から、『ヴェトナム・トレッキングを是非企画して欲しい…』と熱望されました。

私も、以前から気になっていた山でしたので、『4月頃に10名規模で企画してみましよう！』と、つつい返事をしてしまいました。

ヴェトナム・トレッキングを実施している旅行会社数社に、メールで希望を連絡し、日程と旅行費用などを提案してもらいました。

その中で、メールや電話での対応、そして、私の希望を最大限に考慮していただいた『株式会社ワイルド・ナビゲーション（宮田さん）』に、今回のトレッキングをお願いすることにしました。

バリ島サンライズ・トレッキングの参加者に対して、募集案内をメール配信し、会の皆さんにも呼びかけを依頼しました。

その結果、予想を上回る16名の参加希望者があり、現地移動手段、登山コース、装備、下山後の観光、食事等について煮詰めていきました。

今回は、募集から実施まで日にちが少なかったことと、参加者（1名除く）は、バリ島で一緒であったことより、顔合わせをする必要もないと考え、メールにて随時情報を配信し、参加者からは、疑問や希望などをメールにて伺いました。

その結果、大きな問題もなく、成田空港に全員が集合できました。また、旅行会社の宮田さんにも来ていただき、最後の注意事項などをしていただきました。

<2> 専用車にて山麓の町サパへ

ハノイ空港で、迎いの英語ガイド（ハイさん）と無事逢うことが出来ました。でも、プラカードは上下さかさまでしたが…。両替をし、駐車場に移動し、専用車に荷物を積み込み、一路今宵の宿へ向かいました。

ハノイ空港から専用車で、北西へ約350kmを、田園や山間、そして紅河（ホン河）や鉄道に沿った高速道路を快調（？）に走り、途中パーキングで1回の休憩を取り、高速を降りた後は、急峻なくねくねした道を、ライトを頼りにやっとのことで登りきって、ファンシーパンの山麓（1600m前後）にある『サパ』の町に着きました。

高速道路走行中に、警官に止められ、何やら罰金（？）を取られていたような…。ということで、5時間半以上のロングドライブでした。

<3> 棚田トレッキング

ホテルで、ファンシーパンを見ながら朝食を摂った後、ガイドと一緒に、少数民族が住む山

麓（谷間）に広がる棚田トレッキングに出掛けました。

民族衣装を着た少数民族（モン族）の女性数人が、ズーと一緒にでした。サパに機織り製品を売りに来ての帰りのようでした。

水牛、豚、アヒル、鴨、鶏などが、田畑やあぜ道で草を食べています。見渡す限り、谷間から山まで棚田が一面に広がっています。歩いても歩いても、棚田の連続です。

まだ水の張っていない田んぼが殆どでしたが、1ヶ月もしない内に田植えが始まるそうです。涼しい気候の為、日本と同じく、稲作は年1回だそうです（ハノイなどの南部では、年2回とのこと）。

川では、子供たちが水遊び中で、賑やかな声が響き渡っていました。また、集落では、小さな子供が下半身丸出しで手を振っている姿がかわいらしかったです。

途中、唯一のレストラン(?)で昼食を摂り、その後も棚田をイヤというほど満喫しました。時々、あぜ道や小川を歩く所もあり、誰かが足を滑らせたようでした。

昼食含めて6時間45分のトレッキングを終え、迎えの車にてサパに戻りました。

<4> ファンシーパン登山 第1日目

トレッキングに必要な荷物(ザック)、ポーターに預ける荷物(スタッフバッグ)、そして、登山に不要な荷物(スーツケース)に分け、ホテルロビーに集合しました。

ポーターに頼む荷物について、ガイドから『ポーターは食料やシュラフなどを担ぎ上げるので、荷物は預からない…』と言われましたが、何度かの押し問答の末、預かって貰うことになりました。(旅行会社からは、一人8kgまで預けることが可能と言われていました。)

スーツケースの保管をホテルに依頼し、迎えの車に乗り込み、登山口へ向かいました。

20分ほどで登山口に到着。一斉にポーターが車に寄ってきて、それぞれが私たちの荷物を縛り付けていました。と同時に、『水500ml ペットボトル4本』と『トイレトペーパー1巻』が配布されましたが、即、これらもポーターに預けました。

公園管理事務所の職員(?)から簡単な登山の注意事項の説明の後、韓国、日本、タイの国際色豊かな混合ハイカーが、一列になり、歩き出しました。私達以外は、皆若い男女でした。歩き始めて直ぐ、タイからの女性に話しかけられました。

『最高齢は何歳ですか?』

『70歳を過ぎていますよ! 私は、67歳ですが…』

『えっ!?!』 (何を意味しているのでしょうかね?)

翌日泊まる山小屋に着き、休憩と昼食を摂り、再び、歩き出しました。岩場を通り、コンクリート製の手すりを頼りに、アップダウンを繰り返し、日の高いうちに、今宵の山小屋に全員が辿り着きました。

ポーターが夕食の準備をしている間、小屋の外で、期待していなかった缶ビールで喉を潤すことができました(但し、在庫の関係で、先着6名様の特典?でしたが…)。

夕食時に、地元の酒が振る舞われました。焼酎かな…? 美味しい…とは決して言えないモノでした。でも、コップに分けられた酒は、いつもの調子で飲んでしまいました。又、他の人の紙コップの酒もいつの間にか私のカップに注がれ、結果として飲み過ぎたようでした。お蔭で直ぐ眠りに就くことはできましたが…。しかし、翌日は大変でした! 歩

行時間:6時間15分(昼食・休憩含む)

<5> ファンシーパン登山 第2日目(登頂)

昼食は、泊まった山小屋に戻ってきて摂るため、荷物を少なくして小屋を出ました。緩やかなトラバース道を進み、電柱のある峠に着くと、目の前に、ファンシーパン山頂が見えました! でも、かなり下まで崖を急降下し、登り返さなければならないようです。『歩くしかない…』と覚悟し、歩を進めました。

ジャクナゲが疲れを癒してくれました。がれ場を通過し、ロープウェイの下をくぐり、多くの観光客がいる石段の途中に出ました。ここからが、大変！

(今年2月に開通したばかりのロープウェイ山頂駅から山頂まで、石段は600段あるそうです。私たちは、ちょうど半分の途中から石段を歩きました。)

山頂までの急な石段をひたすら登り、やっと山頂へ。しかし、あまりにも多くの観光客がおり、喧噪のみで、登頂の感慨を味わう雰囲気などは全くありませんでした。

やっと人ごみの中で記念写真を撮り、早々に下山し、山小屋に戻り、昼食を摂り、更に今宵の山小屋まで下りました。

ここでも、冷たい(?)ビールを味わうことができました。在庫がなくなったということで、下から担ぎ上げてきたばかりのビールも飲むことができました。

歩行時間：8時間15分(昼食・休憩含む)

<6>ファンシーパン登山 第3日目(下山)

小屋近くの丘に登ると、朝日を浴びているファンシーパンが綺麗に見えました。

朝食を摂り、記念撮影をし、後ろ髪を引かれる思いで登ってきた道を下山しました。ポーターは、荷物も半減したのか、足取りは登り以上に軽い感じでした。

途中より、山麓を巻く感じの道に進みました。10年ほど前に山火事があったとのことで、黒い大きな木々がところどころに残っていました。

皆快調に歩いているようです。振り返ったらファンシーパンが見えます。『あそこに登ったんだあ…』と思うと、感慨もひとしおでした。その後も、見通しのきく場所では何度も何度も振り返り見ました。

登山道脇にある小さなタケノコを口にしましたが、えぐみが口の中に残りました。また、野生の小さな青いリンゴ(?)を採り、かじりましたが、酸味がありました。未だ、食べごろではないようで、熟すと、赤みや黄みが付いてくるそうです。

山麓の村に着いたので、これで終わりかな…と思ったら、その後も、棚田や民家の中を延々と歩きました。日差しが付かれた身体に癒えます。

やっと、シンチャイ村に辿り着きました。長かったあー！

冷たいビールで渴いた喉を潤し、迎えの車でサパへ戻り、昼食を摂った後、ホテルに戻りました。交代でシャワーを浴び、3日間の汗と埃を洗い流しました。

歩行時間：4時間(休憩含む)

<7>サパから中国国境の町ラオカイ、そして寝台列車でハノイへ

2台の車に分乗し、ラオカイへ向かいました。車窓から幾度となく夕日の沈む先に見え隠れするファンシーパンを振り返り見ました。

ラオカイ駅前のレストランで夕食を摂り、5日間お世話になったガイド(ハイさん)と別れ、夜行寝台列車の人となりました。

1室4名(2段ベッド2列)ですが、荷物が多ということで、1室2名ずつの手配をしていただき、下段のベッドに身体を休ませました。車輪の音と揺れが気になりましたが、いつの間にか眠っていたようです。

<8>ハロン湾クルーズとハノイ市内観光

ハノイ駅で日本語ガイド(ニーさん)と合流し、迎えの車にてホテルへ移動し、シャワーを浴びた後、屋上のレストランで、どんよりした空模様の下、オートバイや車の音を聞きながら、でも、気持ちの良い風を感じながら、朝食を摂りました。

専用車で市内を抜け、途中、土産物店で休憩した後、ハロン湾に向かいました。

『夜に強風』の予報があり、船上泊が出来ないということで、荷物は車に残し、クルーズ船に乗り込みました。

乗って直ぐ、昼食を摂り、食事後はデッキに出て、海風を感じながら奇岩怪石の島々をのんびりと眺めました。小船で島に渡り、鍾乳洞『ティエンクン洞』を見学しました。この島には、綺麗な白砂の浜があり、泳いでいる人もいました。聞いたところによると、この白砂は観光用に運んできたそうです。

クルーズ船に戻り、デッキで『野菜アレンジメント』の妙技に目を見張りました。トマト、人参、きゅうり、大根を専用ナイフで切り、花や鳥などを作り上げていきました。これには、皆溜息でした！

約5時間のクルージング後、港近くのお寺『ロンティエン寺』や市場などを見学後、夕食を摂り、急遽泊まることになった高級ホテルに無事着き、明日の朝食時間と集合時間を確認し、各部屋に分かれました。帰りの支度をした後、思い思いにヴェトナムの最後の夜を過ごしたことを思います。

朝食後、専用車にて陶磁器の村『バチャン』に寄りました。飲茶セットをお土産に買った人もいたようです。

その後、ハノイ市内に戻り、時間と体力の許す限り、名所旧跡を精力的に歩き回りました。ガイドが言うには、こんなに歩き回ったのは初めてだとか…。驚いていました。

一柱寺、ホーチミン廟、タンロン遺跡（旧ハノイ城：国旗掲揚塔、正北門など）、ベトナム軍事歴史博物館、ホアンキエム湖、玉山祠、ハノイ大教会 ……

水上人形劇を鑑賞し、最後の夕食を地元の生ビールで楽しんだ後、空港に向かいました。夕食のレストランで応対した女性は、日本語を大学で学んだとか…。

チェックインを済ませたところで、2日間お世話になったガイド（ニーさん）に別れを告げ、誰一人問題なく、出国手続きを済ませ、各々が最後の買い物をし、沢山の思い出を胸に抱き、機上の人となりました。

<9>えっ！ そんなことあり…？

- ① 山小屋1泊目では、部屋に閉じ込められました。夜中にトイレに起きたのですが、外から鍵が掛けられており焦りました。ドアをガタガタさせたので、気が付いて貰い難を逃れることができました。二人が、部屋の両隅に静かに寝ていたので、誰もいないと思われたようです。
- ② 登山中の水は、『毎日 500ml ペットボトル4本』支給ということでした。事前に『2本』と聞いていたので、何度もガイドに確認しましたが、やはり毎日4本とのことでした。しかし、結果は、2本でした。山小屋2泊目の夜に、ガイドから『すみません』と謝られました。
- ③ ガイドから、下山後のシャワーは、最初に泊まったホテルに2室確保していると説明されていたのですが、直前になり、『部屋が確保できないので、歩いて数分の所でシャワーを浴びて欲しい…』と、変更の申し出がありました。事前説明と違うことを強く言い、このホテルで何とかシャワー（2室）を使用できるようにして貰いました。（旅行会社からは、『小さなホテルでシャワー利用…』と言われていたので、内心は、ガイドの言うように、他でも仕方ないかな…とと思っていましたが…）シャワーを待つ人は、荷物の整理が出来たので、助かりました。
- ④ ハロン湾オーバーナイトクルーズ（船上泊）の予定でしたが、強風予報の為、5時間のクルーズに変更になりました。その結果、代替の夕食とホテル宿泊となり、思いがけず、高級ホテルに泊まることができました。翌朝には、ホテル最上階のレストランで、ハロン湾を眺めながらの朝食ビュッフェを楽しむことができました。また、昼食までクルーズの予定でしたが、午前中の予定が空白になったため、急遽、陶磁器の村『バチャン』に寄ることにしました。更に、ハノイ市内を十分に散策でき、ホーチ

ミン廟では衛兵交代を見学することも出来ました。

<10>おわりに

準備から実施まで十分な時間が無く、慌ただしい参加者募集となり、県連所属の 全ての会に案内が出来なかったことをお詫びします。

現地では、予期せぬことが次から次と多く発生し、その都度、参加者の皆さんにはご心配をお掛けしました。にも拘わらず、気持ちよくご協力いただきましたことに改めて感謝します。(私自身が納得できないことは、とことんガイドやホテルの人達と交渉しました。)

ラオカイでの夕食時に、『インドシナ半島の屋根：ファンシーパン登頂証明書』と『記念メダル』を、思いがけず全員に貰い、皆でにっこり…。思い出に花を添えてくれました。

ヴェトナムの料理(味)は、私達日本人に違和感がないようですね、ホテルやレストランでの食事は、皆、『美味しい、美味しい…』と箸の動きがスムーズだったようです。また、食事の度に飲むビールも美味しかったです。お蔭かどうかは分かりませんが、体調を大きく崩した人はいなかったように思います。

参加者が、満足感・達成感に浸っている姿に接することが、企画者としての最大の喜びです。今後も機会を見て、同様なトレッキング(観光含む)を実施していけたら良いなあ〜と思っています。
(2016/4/27/Wed.)



ト
カ
ツ
ト
滝



2
日
目
泊
山
小
屋

- ・県連創立50周年事業として、バリ島サンライズ・トレッキング、今回のヴェトナム・ファンシーパン登山を実施しました。千葉県連盟からは、海外で登山・トレッキング・クライミング等を多くの会員が楽しんでいます。
- ・50周年記念海外事業を記念して、会員の海外情報を持ち寄り、交換会などを計画したいと思います。ぜひ、興味のある方は参加・協力をお願いします。